

四條畷市教育委員会ニュース

内容：

- すべての子どもに「分かる・できる」授業を

進む！「授業のユニバーサルデザイン化」

○すべての子どもに「分かる・できる授業」を

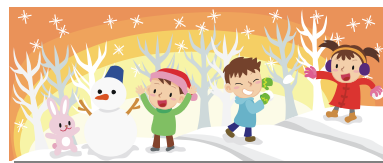
教育におけるユニバーサルデザイン

学習に困難のある子どもにとって、参加しやすい学校園、わかりやすい保育・授業は、他のすべての子どもにとっても、参加しやすい学校園であり、わかりやすい保育・授業である。

子どもたちは、日々の学習活動において誰もが「分りたい」「できるようになりたい」と願っています。授業において、支援教育が大切にしてきた「子ども一人ひとりの特性に応じて、授業の中でどんな力をつけさせたいか。分からなかったことやできなかったことが少しでも理解できるように」と、教師たちは、子どもたち一人ひとりをしっかり受け止め、人間として成長・発達させることに努めてきました。

今年度から、四條畷南中学校・四條畷南小学校・四條畷東小学校において、この支援教育の考え方を活かし、すべての子どもたちに、すべての学級で「分かる・できる授業」をめざして、「授業のユニバーサルデザイン化」をすすめることにより「確かな学力の定着」に向けた研究を深めてきています。

各学校において授業を公開し、大学教授や大阪府教育委員会の指導助言から、授業の姿が大きく変わってきています。その様子や考え方について紹介します。



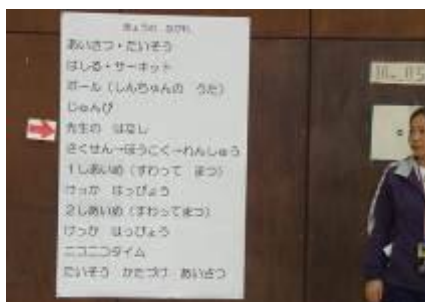
環境づくり

○子どもたちが学習に集中し、学びやすい環境を整える工夫

- 黒板の周りの掲示やプリント類などが最小限に整えられている
- 1日のスケジュール、1時間のスケジュールが示されている
- みんなで使うものの置き場所、置き方が決められている
- 学校全体で統一された「学習の仕方」を作成し効果的な学習方法を示したり、学習のきまりなどが教室に掲示され徹底されている など

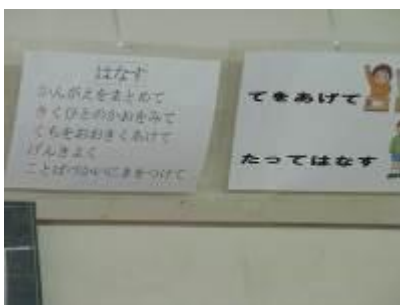


1日のスケジュールを表示



1年体育 授業の流れを表示（体育館）

四條畷南中学校冊子作成「学習の仕方」配布



学習の決まり 「話し方・発表のルール・声の大きさ・学習の役割分担」などを決め、みんなで守るクラスに。



ユニバーサルデザインの授業づくり

1、焦点化（シンプルに） 「何を学ぶのか、何を考えるのかを明確にされています」

わかりやすい説明と指示で「これから何をするのか」「何を考えるのか」を明確にし、子どもたちの学ぶ意欲を高めます。



1年国語科 めあての確認

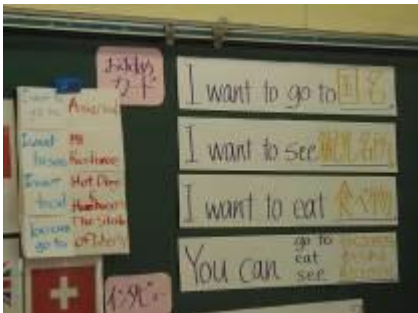


6年外国語活動 学習の手順の確認



中学校2年生数学科 解き方の工夫の確認

2、視覚化（ビジュアルに） 「思考を助けるために、視覚的に表します」



絵図やカードをつかったり、電子黒板の活用で子どもたちの興味関心や意欲を高めます



1年生のグループ活動では、手順を確認したり、司会役のミニ先生のシナリオや役割分担も具体的に準備します

3、共有化（シェアする） 「互いの考えを引き出し合いながら、求める方向を全員で確認します」



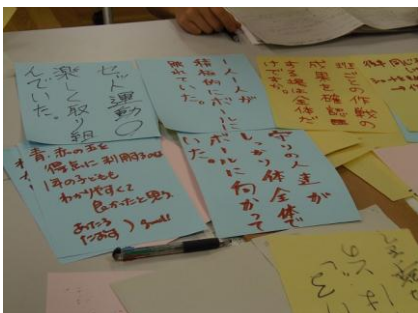
6年外国語活動 1年体育館での体育科



1年教室で国語科の学習で



グループや全体での話し合いから学びの共有化



授業後の協議会でも、授業の成果と課題を出し合い、共有化が行われます



3校合同研修会で研究内容の確認と学習会

指導案の工夫

授業を行うにあたり事前に指導案を作成します。指導案は子どものつまずきのポイントを予測し、適切な指導計画を準備すると同時に、参観者の授業を見る視点を明確にし、後の討議会に活用するものです。

ユニバーサルデザインの授業をめざす場合、この指導案の形式に、支援を要する子どもへの手立てを位置づけることも大切になってきています。

.....

モデル指導案の様式です

〇〇科学習指導案

指導者 四條畷市立〇〇〇学校

〇 〇 〇 〇

1. 日 時 平成〇〇年〇〇月〇〇日 () 第 時間目 (〇〇 : 〇〇 ~ 〇〇 : 〇〇)

2. 場 所 四條畷市立〇〇〇学校 第〇学年〇組教室

3. 学年・組 第〇学年〇組 (男子〇名 女子〇名 計〇名)

4. 単 元 名 「〇〇〇〇〇」(学習指導要領の領域)

5. 単 元 の 目 標

〇

〇

〇

6. 評価規準

関心・意欲・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解

7. 系 統 性

8. 指導にあたって

(1) 単元について

(2) 児童・生徒について

(3) 実態調査の結果と考察

事前アンケートやレディネステストの結果、考察 等

9. 指導計画 (全〇時間)

10. 本時の学習 (〇/〇)

(1) 本時の目標

①

②

(2) 本時の展開

学習活動（過程）	主な発問◎と予想される児童・生徒の反応●	学習のユニバーサルデザイン◇と個に応じた手だて◆	評価の観点☆

ポイント
①板書の構造化 ②ねらいの明確化 ③視覚支援
④具体物の提示・操作 ⑤活動の仕方の提示
⑥発問の精選 ⑦活動内容の明確化
⑧見通しを持たせる

1 1. 板書計画

--

1 2. 参考文献

1 3. 座席表・・・別添でも可

教 卓

1 4. ご高評価欄

参考指導案

国語科学習指導案

指導者 四條畷市立四條畷南小学校 井上 純

1. 重点目標 児童の集中力の育成に主眼を置き、自ら考え、主体的に判断し、表現する子どもを育成する。

2. 校内研修 「国語科」

- ・ペアワーク、グループワークを取り入れ、コミュニケーション力を高める授業づくりをめざす。
- ・南小のスタンダード（授業規律、話し方・聞き方）づくりをめざす。
- ・支援教育を取り入れた学習のあり方を研究する。

1年生の目標

- ・自分が経験したことを、感想を入れて順序立てて話す。
- ・話を、興味を持って、最後まで聞く。

討議の柱「特別支援教育を取り入れた、わかる・できる授業づくり」

授業の観点……全体への支援「ユニバーサルデザイン」を、授業に取り入れられているか。
支援を要する子に対して、書く、話す、聞くに関してそれぞれ適切な支援が行われているか。

3. 日 時 平成25年12月6日（金）第5校時（午後1時55分～2時40分）

4. 学年・組 四條畷市立四條畷南小学校 第1学年1組（男子16名 女子11名 計27名）

5. 単 元 名 知らせたいことを話そう「わたしのたからもの」

6. 単元の目標

- ・自分の宝物を友達に知らせ、また、友達の話をも、興味を持って聞き、伝え合いの楽しさを知る。【関心】
- ・みんなに知らせたいことを選び、話の順序を考えながら友達にわかるように話すことができる。話の大事なことを落とさないように、興味を持って聞くことができる。【話す・聞く】
- ・宝物のことがよく伝わるように、紹介することを文に書くことができる。【書く】

7. 本単元で育てたい力

- ①みんなに知らせたいことを選び、話の順序を考えながら友達にわかるように話すことができる。
 - ・自分の宝物は何かを考え、どんなことを友達に伝えるのかをメモにまとめる。
 - ・宝物を見せながら、順序よくわかりやすく話す。
- ②話の大事なことを落とさないように、興味を持って聞くことができる。
 - ・大事なことを落とさずに話の終わりまで聞き、もっと知りたいことを質問する。
- ③はっきりとした発音で、ていねいな言葉で話すことができる。
 - ・姿勢・口形などに注意して、はっきりした発音で話す。

8. 学習材の系統

- 「ともだちとはなしましょう」（1年上）
 - ・相手にわかるように、主述の整った文で話すことができる。
 - ・友達の話をしっかり聞くことができる。
- 「わたしのたからもの」（1年下）
 - ・知らせたいことが相手によく伝わるように、内容や順序を考えて話すことができる。
- 「クイズ大会をしよう」（1年下）
 - ・大事なことを落とさないように相手の話を聞いたり、もっと知りたいことをたずねたり、聞かれたことに答えたりすることができる。

9. 指導にあたって

(1) 【教材について】

本教材は、指導要領における「A 話すこと・聞くこと 相手に応じ、身近なことなどについて事柄の順序を考えながら話す能力、大事なことを落とさないように聞く能力、話題に沿って話し合う能力を身につけさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。」及び、「話すことに関する指導事項（イ）相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて話すこと。（ウ）姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。」の内容にあたるものである。また、言語活動「（エ）知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりすること。」を通して、これらの指導事項を指導していくものである。

1年生では、これまで「A 話すこと・聞くこと」の内容で「ともだちと はなしましょう」という教材を学んだ。これは、主述の整った文型で友達とペアで話す活動を取り入れたものである。この教材の教科書の話型に「よしおさんの たからものは なんですか。」「ぼくの たからものは くるまのほんです。」というものがあつた。教科書の話型を見本に、子ども達が自分の宝物について、話す様子はとても生き生きして、友達との会話を楽しんでいた。

本教材は、自分の宝物をテーマとし、実物を持ちながら話をするという言語活動を、一貫して行うので、前教材「ともだちと はなしましょう。」より一層、自分の大切なものを相手に知らせたいという意欲を持ち続けながら、学習に向かうことができ、自分から表現したくなる教材であろう。

第1次では、子どもたちに教材の見通しを持たせる。教師がまず自分の宝物を見せ、紹介のスピーチを行うことで基本文型を提示するとともに、子ども達の学習意欲を高める。宝物が大きかったり、持ち出せなかったりする子ども達のために絵や写真を見せながらの例も紹介する。自分の紹介したい宝物が決まった際には、学級便りを通して、家から宝物の実物や写真を学校に持たせてもらいたいことを伝え、保護者に協力をお願いする。

第2次では、発表原稿を作る。子ども達は発表原稿を作ることが初めてなので、発表原稿の元になる発表メモを作ることから始める。この際、「宝物は何か」「宝物の気に入っているところ」「大切なわけ」という観点が書かれたワークシートを用いる。発表メモのワークシートは、発表原稿を作りやすいように、観点ごとに分けて書き込めるようにする。

第3次では、発表会に向けての学習を進める。まずは、これまでに作った発表原稿をもとに、ペアで交互に話し手、聞き手と役割を替えて練習をする。2回以上話し、話すことに慣れ、子ども達が自信をもてるようにしたい。そして、お互いわからないところを質問し合い、答えたことを発表メモに書き加え、発表内容を増やしていく。第5時となる本時では、4、5人のグループで練習をする。クラス全体で行う発表会を意識するために、適切な声の大きさと話しているか、相手に伝わる速さで話しているか、わかりやすく話すための工夫をしているかという三つの観点で、他者評価をする。

そして、第4次の第6時・第7時で「たからもの はっぴょうかい」を行う。前時にもらったアドバイスを活かして発表することができたかなど、発表の感想を交流し、学習を振り返りたい。

(2) 【児童について】

(全文削除)

本単元に入る前に、以下の観点で、児童の実態調査を行った。

◎学習に入る前の実態把握の観点

- ①朝のスピーチで、自分の知らせたいことをはっきりと話することができるか。
- ②朝のスピーチで、口をはさまず、姿勢よく友達の話最後まで聞くことができるか。
- ③日記を、「だれが」「いつ」「どこで」「だれと」「なにをした」「どうだった」という黒板のメモを見ながら、作文を書くことができるか。

○朝のスピーチに関しての実態調査の結果

- | | | | | | |
|---------------|-----|------|----|-------------|-----|
| ①話す…はっきりと話せる。 | 16人 | 話せる。 | 7人 | はっきりとは話せない。 | 4人 |
| ②聞く…しっかりと聞ける。 | 13人 | 聞ける。 | 4人 | しっかりと聞けない。 | 10人 |

○日記を書くことに関しての実態調査の結果

- | | | | | | |
|--------------|-----|------|----|--------------|----|
| ③書く…くわしく書ける。 | 13人 | 書ける。 | 8人 | 支援してもらって書ける。 | 6人 |
|--------------|-----|------|----|--------------|----|

(3)【指導にあたって】

本単元では、自分の大切にしている宝物について、友達にわかりやすく話そうという目的をもとに学習を行う。「児童について」で記述したような、これまでの「話す・聞く」の日々の取り組みを生かし、よい話し方・よい聞き方の態度をさらに向上させて、話し手と聞き手を共に成長させたいと考える。

まず、第1次では、教師の宝物の話聞かせることにより、学習の意欲を高める。自分の考えや思いがみんなにわかるように話すには、どのような話し方をしたら、伝わるかを考えさせる。技能面からは、はっきりした口形でゆっくり話す、聞き手の方を向いて話す、聞き手は話の内容がよりわかりやすくなるということを理解させる。そして、宝物を考える際には、①自分の好きなこと、②家族や好きな人からもらったもの、③どこかへ行った記念のもの、の3つから決めるようにする。

第2次では、話す内容を書くために、わかりやすくするための手だてとして、発表メモのワークシートを活用する。そこで、3つの観点(①宝物の特徴、②気に入っているところ、③大切にしているわけ)から話す内容を整理し、順序立てられるようにする。そして、発表原稿に、話す内容を「はじめ・なか・終わり」とまとめて作文する。

第3次では、まず、ペアで宝物を紹介し合い、お互いに、わからないところを質問する。質問に答えるとともに、答えたことを発表メモや発表原稿に書き込んで、発表内容を充実させ、次のグループ発表につなげる。

グループ発表は、4, 5人で行う。その際、司会する人、発表する人、質問する人、振り返りシートに書き込み評価する人、と、それぞれ役割を決めて行うようにする。発表を、ペアからグループへと回数を重ね、話すことに慣れ、自信を持って話せるようにしていきたい。また、聞き手も大事なことを落とさずに聞き、話に応じた質問や感想を言えるようにしていきたい。そして、最後のクラス全体での発表会に臨むようにしたい。

この単元を通して、日常の会話がさらに充実し、聞き手がわかりやすく話せるような話し名人に、最後まで話を聞いてもらえて、話し手が話しやすいなと思えるような聞き名人に、これから育っていけるようにしていきたい。

○支援のポイント「ユニバーサルデザイン」

◇話す ・「話すときのかきくけこ」、「声のものさし」、「発表のやくそく」を教室に表示し、意識できるように声かけをする。

◇聞くとき ・「聞くときのあいうえお」を教室に表示し、意識できるように声かけをする。
・全員が静かになり、話をする人の方を注目したのを確認してから話すようにする。
・机上には、必要なものだけ置くようにする。
・最後まで話を聞いた後で、質問できる時間を確保する。
・聞く人が、他の班の活動を気になりにくい座席配置にする。

◇書くとき ・ひらがな、カタカナ50音表が必要な子に用意する。
・ワークシートにマスをつけておく。

◇ペア、グループ学習

- ・座席や生活班を教師が決め、学習、活動しやすい座席配置、グループにしておく。
- ・役割ごとの席を決めておき、自分の役割をわかりやすくする。

◇授業のルール

- ・授業中に立ち歩かない。
- ・手は、だまって挙げる。
- ・他の人と同じ答えのときは、「いいです。」と言う。
- ・人が話しているときに、声を出さない。

10. 学習指導計画（全7時間） 本時5 / 7

	過程	時間	指導内容	評価規準	■予想されるつまづき☆支援
「わたしのたからもの」	つかむ	1	<p>○自分の宝物を紹介する学習の見通しを持つ。</p> <p>○教師の宝物の話を聞いて、自分も宝物について話そうとする意欲を持つ。</p> <p>○教師の宝物の話を聞いて、わからないことやもっと知りたいことを質問したり、感想を発表したりする。</p> <p>○自分の宝物をいくつか思いうかべて、紹介したい宝物を一つに決める。</p>	<p>【関心】学習の見通しを持ち、発表への意欲を持つことができる。</p> <p>【関心】自分の紹介する宝物を一つ選ぶことができる。</p>	<p>■自分の宝物を思いつかない。</p> <p>☆自分の好きなことを思い出したり、仲の良い友達と一緒に考えたりするように声をかける。</p>
	表す	2・3	<p>○選んだ宝物について、「宝物の特徴。気に入っているところ。なぜ大切にしているか。」など、友達に知らせたいことを発表メモとしてワークシート①に書く。</p> <p>○ワークシート①に書いた発表メモをもとに話す順序を考えて、ワークシート②に書き込み、発表原稿としてまとめる。</p>	<p>【書く】自分の宝物について、どんなことを友達に伝えるのか考えてワークシートに書くことができる。</p> <p>【書く】組み立てを考えて、発表原稿を書くことができる。</p>	<p>■文字がわからないので、ワークシートに書くことに時間がかかる。</p> <p>☆ひらがな 50 音表を見たり、文字をうすく書いたりする。</p> <p>■どのような文を書いているか、考えられない。</p> <p>☆書く場所を3つにわけて、書きやすくする。</p> <p>☆何を書きたいのか言葉に出してから、書かせる。</p>
	ふかめる	4・5 (本時)	<p>○具体物を見せ合いながら、1対1の対話で宝物を紹介し合う。</p> <p>○話すとき、聞くときの約束を確かめる。</p> <p>○具体物を見せ合いながら、4, 5人のグループで宝物を紹介し合う。</p>	<p>【話聞】ペアやグループで、発表原稿を見ないで話すことができる。</p>	<p>■ペアの子に対して、気持ちがのらず、話すことができない。</p> <p>☆話しやすい相手とペアを組めるように座席配置を決める。</p>
	まとめる	6・7	<p>○発表会を開き、自分の宝物について説明したり、質問したりする。</p> <p>○話すとき、聞くときの約束を確かめる。</p> <p>○振り返りシートに発表の感想を書く。</p>	<p>【話聞】上手な発表や聞き方、質問のしかたを理解できる。</p> <p>【話聞】物を見せながら、宝物を紹介することができる。</p> <p>【書く】学習をふり返り、感想を書くことができる。</p>	<p>■声を出せないで、相手に伝わらない。</p> <p>☆発表原稿を相手と一緒に見て、指で追いながら話す。</p> <p>発表会では、書画カメラを活用する。</p> <p>■話を最後まで聞けず、しゃべってしまう。</p> <p>☆グループで役割を決め、退屈しないようにする。</p> <p>☆ルールを守って発表会をする。</p> <p>☆話を聞いた後、質問できる時間を取る。</p>

1 1. 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・グループで具体物を見せながら、発表内容の順序を理解して、宝物を紹介することができる。

(2) 本時の展開 (5/7)

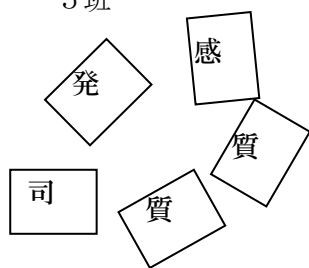
学習活動と主な発問	○指導の要点 ◇全体への支援 ◆評価	■予想されるつまずき ☆個に応じた支援
<p>1. 発声練習をする。(3分)</p>	<p>◇必要なものだけ机の上に置くことを確認する。 ○姿勢、口形に気をつけ、声のものさしで声の大きさを確認しながら声を出す。</p>	
<p>宝物を見せながら、みんなの方を見て、友だちに話そう。</p>		
<p>2. 本時のめあてをつかむ。(7分)</p> <p>⑧今日は、グループに分かれて、宝物を紹介し合います。 ・上手な発表のしかたを話し合い、発表のめあてを持つ。 ⑨発表する時には、どんなことに気をつけたらいいでしょう。 ・宝物の紹介の仕方を確かめる。 ⑩話す人は、宝物を見せながら、みんなの方を見て話しましょう。</p> <p>⑪聞く人は、最後まで聞いてから、質問や感想を話すようにしましょう。 ⑫グループの役割は、順番交代で行いましょう。</p> <p>3. グループに分かれて発表会を行う。(20分)</p> <p>⑬グループに分かれて発表会をしましょう。</p> <p>4. 発表を振り返り、感想を書き、学習を振り返る。(10分)</p> <p>⑭友達の発表を聞いて、気づいたことや感想を「振り返りシート」にまとめましょう。</p>	<p>○本時のめあて、話し方、発表のルールを確認させる。・声の大きさ(レベル3) ・話す速さ・相手を見る・宝物を見せながら・立って話す ◇発表・司会・質問・評価感想の4つの役割を決め、発表ごとに交代する。 ◇役割の札を机の上に表示し、発表ごとに座席を移動する。 ◇役割それぞれのマニュアルを用意し、だれでもその役をできるようにする。 ◇早く終わったグループは、他の班の発表を聞きに行ってもいいこととする。 ○聞き方を確認させる。 ・相手を見る・静かに・最後まで・質問は終わってから</p> <p>○発表者は立って、姿勢よく話し、宝物を紹介する。 ◇他の班の発表が、気になりにくい座席配置にする。 ◆発表原稿をできるだけ見ないで、みんなの方を向いて、話すことができるか。 ◆興味を持って、話を最後まで聞くことができるか。</p> <p>○自分やグループの人の発表を振り返り、次時の発表会へつなげる。 ◇他者評価と自己評価のシートを同じパターンで書き込めるようにする。 ◆自分や友達の発表を振り返って、感想を書くことができるか。</p>	<p>■話を最後まで聞けず、声を出してしまう。 (1, 3, 6, 8, 18, 21, 27) ☆質問がある場合は、後で手を挙げて発言できることを伝える。</p> <p>■声が出せず、相手に伝わらない。 (19) ☆発表原稿をコピーし、グループのみんなに配った上で、口を動かし発表する。 ☆質問は、「はい」か「いいえ」で答えられるものにする。 ☆事前に質問することを書いておく。</p> <p>■質問に当ててもらえず、いらいらする。(1, 3, 6, 21, 27) ☆質問する機会が順番で回ってくるようにする。 ☆次が質問する順番だと視覚的にわかるように座席に表示する。</p> <p>■文字が定着していないので、文章の内容がわかりにくい。(18, 21) ☆ひらがな50音表を見ながら、書いたり、机間指導したりする。</p>

○座席表 (名前削除)

黒板

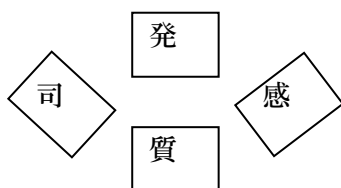
○グループ活動の座席配置

5班

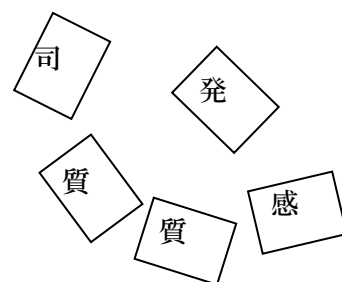


まえ

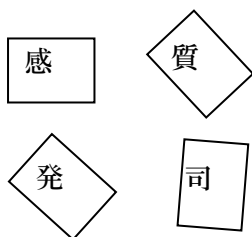
3班



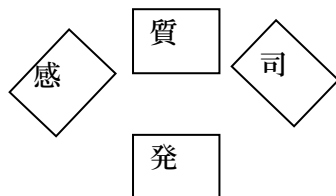
1班



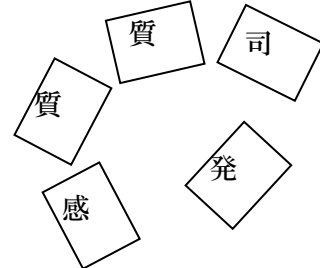
6班



4班



2班



子どもの特徴	番号
聞いて理解することが苦手。	(削除)
じっとしているのが苦手。	
ルールがわかりにくい。	
友達とのトラブルが多い。	
文字を読むことが苦手。	
文字をていねいに書くことが苦手。	
学校では、声を出すことが苦手。	

わたしの たからもの

めあて

『たからものを見せながら
みんなのほうを見て はなそう。』

はっぴょうのルール

① はっぴょう ↓ ミニ先生

→

←

じゅんばんに

かんそう ↑ しつもん

② しつもんは、はっぴょうがおわってから、
一つだけ

③ 早くおわったはんから、ふりかえりシートをかく

はなしかた

・ 立って

・ こえの大きさ レベル3

・ ゆっくり

・ あいてを見て

ききかた

・ だまって

・ あいてを見て